しげき谷べを朝とひわたる。

（高岡より中越線にて四哩餘）

とある。

補遺

（野田文六稿）

○大阪城

金城臨望月、勝國事堪哀、隆準之天授、孤兒豈覇才、
掌擡群障出、接撰大江廻、形勢依然在、千秋重鎭開。

竹山をして斯く詠せしめた大阪城は大阪市の東端にある。一に金城と稱し、天正の昔稀代の怪傑豐臣太閤が天下の勢力と財力とを聚め三年の日子を費して築き上げた鐵壁で、當時は本丸、二の丸の兩郭に分ち更らに三の丸と稱へる外郭を廻らして其の境域東西二十餘町南北十八町、北には大淀の大河を控へ西は茅渟の海に臨み、南には

補遺

空濠あり、松屋町口、谷町口、八丁目口、平野口等には何れも樓櫓城壁を設け、平野口の南には眞田丸の出城迄築かれ、その宏壯堅固實に天下第一であつたが、かの大阪夏冬兩度の陣に外濠は埋められ樓櫓の多くは毀たれてただ本丸をのみ留め、德川の初期には單に一城代の守城たるに過ぎなかつた。而かも其の本丸も明治戊辰の亂の時火を失して樓屋悉く灰燼に歸し今は僅かに第四師團司令部の所在地として大阪城の名を留める許りであるが、この一部を殘してゐる深濠の碧、城壁の巨石には尙も往時の偉大さと豐公の威望の絕大さを偲ぶに足るものがある。

○四天王寺

四天王寺は大阪市の東南邊にある近畿隨一の巨刹であつて、大阪城と共に浪速に遊ぶ者の必ず足を向けるべき所とされて居る。

山號は荒陵山と稱して寺域の廣さこと東西八町南北六町、この間に彼の名高い五重の塔を始めとして、太子堂、金堂、六時堂、講堂、釣鐘堂、幾多の樓門、山門建ち並び何れも壯美を盡して居る。中にも釣鐘堂の大釣鐘は近年の鑄作で浪花名物の一に數へられ又國寶となつて居る、猫門の猫は名匠左甚五郎の作に係り、その他寺寶として聖德太子、弘法大師、小野道風等の筆になつたものが無數に藏せられて居る。

寺は聖德太子の創建で、其の後幾度か兵燹に罹つて荒廢に歸したも

補遺

のを寛文年間徳川家綱が修築して舊觀に復せしめたものである。たゞに靈場として名高いのみでなく、春は櫻、秋は萩の名所として遊覽の杖を曳く者が甚だ少くない。

○生國魂神社

市電生國魂停留場の南方懸崖の上に位置し、その舞臺からは大阪市内を一目にをさめ、又遙かに大阪灣内の景勝を望むべく、更らに西攝の烟巒と播州の寸青、さては煙波をへだてて淡路島の遠景も一眸の中に集り展望甚だ開闊な一神域である。造營の年代は審かでないが應神天皇の三年、昔の難波ケ崎に草創し後明應四年蓮如上人が本願寺御堂の傍らに遷座す等とも記されてあるから古社には違ひな

い。戰國時代には本社も屢々兵火の災に逢つたが、天正十一年漸く神璽を今の所に藏めて小祠を營み、豐臣秀吉が大阪城を築くに及んで初めて本社を造營せられ、社領を寄進して現今の基礎を固めたものである。

域内には櫻が多く春は花の客で甚だ賑ふ。

○高津神社

大阪市内南區高津一番町にあつて、生國魂神社と共に東大阪の二大神社である。祭神は仁德、應神、仲哀、履仲の諸帝及び神功皇后の靈を配祀して居る。地は昔の高津の宮の趾と云ふことで、高臺之碑

補遺

が存して居る。

西面した舞臺に立つて四方を眺める時「高臺に登りて見れば……」の御製の昔を偲ばれてそぞろに涙の落ちるを覺へる。

湯豆腐と共に「高津の舞臺」は昔から名高く大阪全市の甍を一眸に收めることが出來る。

甍越し若葉や越へて西の海

○中之島公園

賴山陽が、

萬人聲裡夜如何、月至天心露氣多、豪竹哀絃船櫛比、
一江無處著金波。

と詠じた舊中之島公園は、今は大阪市廳の敷地となつて全部取拂はれ僅かに豐國神社の一祠が市廳と大阪圖書館との間に介在して昔の俤を留めてゐるばかりで、所謂中之島公園の全部は其の東方劍崎の左右下から始まつて大江橋と天神橋との間に亘り水の上に移された。則ち淀川のド眞中を埋立てて中之島公園の移轉をやつたもので水の都の大阪としても最もふさはしい計劃ではあつた。公園に入るには橋の上から階段を降つて行くので、さながら水の上に降りて行く樣な感がある。地域も前の坪數だつた三千と云ふ樣な猫額大のものに比して十數倍し中に大運動場あり遊戲場あり休息所、旗亭迄設けられ公園としての設備は最新式の善美を盡して居る。園内には至

補遺

る所に花樹が植へつけられ春時には花と人とで埋れる。淀川の流れ脚下を洗つて夏は納涼の場所としてよく、秋は萩の葉末の露に輝く月の光も夢の様である。煙の都の人士の休遊場としては蓋し市内隨一の樂園であらう。

○阿彌陀池

蓮池山和光寺と號し元祿年間善智上人の開基に係る名刹で、本尊は信州の善光寺と同體である。昔物部氏が百濟から傳來した佛像經典を投げ棄てた難波の堀江の跡とも云ひ又善光寺に本尊として安置する阿彌陀如來の尊像の出現した靈場とも云ひ傳へられて居る。境内に池あり所謂阿彌陀池である。他に寶塔あり佛像出現の縁に因んで

放光閣と稱して居る。世人は寺號を稱へずして皆阿彌陀池とよび賽者は常に夥しい。寺の裏門を少し西北に出た所に土佐の稲荷がある。土佐藩邸の鎮守として勸請せられた所で、ここも亦夜櫻の名所である。

○天王寺公園

大阪市の南東端にある地域三萬坪の大公園で南大阪に於ける樂園である。開園は古くはないが諸種の西洋樹は亭々として並木をなし東方茶臼山の翠綠と相對し殊に初夏は藤の名所として新綠の空に紫の波を漂はすもあでやかに、春には梅桃あり秋には萩の葉末が月に搖いて虫の聲のそこここで聞へるのも幽閑である。園内には別に三

補遺

千坪を劃し理想的の日本園を作り泉石の粹を凝して居る。大阪動物園、武德殿、公會堂、植物園等も公園に遊ぶ者の一度は訪ぬべき所であらう。

公園の西隣は新世界で幾多の活動寫眞館あり國技館ありルナパークあり通天閣あり四季晝夜を通じて擾騷雜鬧を極めて居る。

○神武天皇御陵

御陵に詣るには大和畝傍驛で下車せねばならぬ。驛から十二町にして綏清帝の御陵あり神武天皇の御陵はそれより南方約三町白橿村大字山本にある。松樹疎らに生へた畝傍の丘陵はその傍に聳へて立つて居る。御陵の周圍四百七十一間、四境壯麗境域森嚴として人を

して自ら稜威の身に迫るを覺へしめるものがある。殊にこの附近は三千年來の舊地で我が皇祖大帝がこの地に初めて國礎を奠め給ふたことを思ふ時何者も慨然として月日の太だ急なるを驚ろく。御陵の南方數丁には橿原神宮がある。これこそ橿原皇居の古址であつて明治二十三年初めて神宮を造營し、天皇及び五十鈴媛皇后を祀り官幣大社に列したもので境内には柳櫻枝を交へ、翠松林をなし自ら別天地の思を起さしめる。

○談山神社

社は磯城郡多武村の半腹にある、鎌足公の靈を祀つた別格官幣社で其の社殿の壯麗と、地域の幽閑なる關西の日光とも稱すべきで、神

補遺

廟は翠巒を負ひ碧沼を帶びて幾多石段の上に建ち、正殿、拜殿、樓門、透樓、寶庫、拜所、浮圖、假殿等輪奐の美を極めて居る。浮圖は卽ち鎌足公の遺骨を葬つた所で高さ四丈三尺十三層をなし、その他後醍醐天皇の寄進せられた石燈籠、藤原淡海の墓等もある。山は一帶に櫻楓多く春花秋葉の眺矚に富み雅客の遊ぶ者も常に夥しい。山中にある不動瀧、華嚴瀧等も又探るに足るべきである。この地に至るには櫻井町から一直線に南に指すもよく、初瀨町から田圃の間を縫ふて神社の入口倉橋村に出る近道もある。櫻井町からならば其の道程五十町、一丁毎に建てた石標四十八を數へて神域に達するのである。

藤かづら絶へぬ根ざしをとどめたる
跡もかしこし多武の山でら　資芳

圓城寺古袈裟少、飛鳥宮空環珮門、唯有談峰神德在。　鐵兎

○櫻井の遺趾

淀川の北岸山崎街道の傍にあり、東海道線山崎驛からは西南方十數丁に當る。延元元年楠正成が足利尊氏の軍を防がんため死を決して湊川に赴かんとし一子正行を招いて遺訓を傳へ、父子生別した楠公子別れの遺趾で、路傍に古松あり、この下に事を記した碑が建てられてある。訪ねてその當時の事を追想すると俯仰感慨去るに忍

補遺

びざるの感を抱かしめる。

○交野が原

淀川の南岸京街道を東に入ると北河内郡氷室村字渚に出る、こゝには波瀲院址あり又次の片鉾村には郊祀壇の廢址がある。この邊一帶は昔の交野の原で、今は大字禁野、渚、中宮、甲斐田、片鉾等に分れて居る。禁野の字は桓武天皇が曾てこの地に御遊獵あり、國民の私かに鳥獸をとる事を禁ぜられた事に起因し、中宮の邊を鳥立の原と稱へて居る、新古近集に

御狩する鳥立の原をあさりつゝ
交野の野邊で今日も暮しつ

とあるのは、この所を詠じたもので、今も田口村字山田池のあたりは甚だ幽靜で、冬には鴫、鴛鴦の群が多く、遊獵の好遊地とされて居る。

○明星水

河内星田驛から東十町天の川の南岸に聳へる山は妙見山と稱して山上に妙見の小祠がある。巨岩三石を置いてその神体とし前には拜殿を設けて居る。登路は梯を登る如く甚だ峻險であるが山上の眺矚は頗る佳なるものあり、山麓妙見川の兩岸には櫻樹夥しく花時には清澄な溪流に影を映して頗る奇觀を呈する。明星水と稱へるのはこの山中の小瀑の名で境内の幽閑と相俟つて共に夏時の避暑地として

適して居る。

山を下つて河内街道を辿り甲可村字岡山に行くと昔大阪の役に徳川家康が本陣を構へたと云ふ「忍ケ岡」の古趾がある。

○野崎觀音

四條畷驛から東南十町、野崎山の半腹に野崎觀音がある。本尊は十一面觀世音で靈驗あらたかなる所から歸依する者頗る多く日夜香華を絶たぬ、殊に毎年五月一日から十日間は無緣經修行中のため賽者夥しく群をなし附近至る所掛茶屋を設けて客を呼んでゐる。時は偶々菜種の花盛りで滿郊只是黄毛氈を敷きつめた如くその間に蝶は舞ひ、鳥は歌つてまことに春日悠々の思がある。鐵道省はこの季に

は關西本線に野崎驛を設けて賽者の便を圖る例となつて居る。曾て山陽この地方の風光を賦して

輟棹輕舟材岸横、兩之分隧上隄行、
舟中隄上呼相答、十里菰蘆夕陽明。

と記した。

○楠氏の遺蹟

河内の南方に遊ぶ者は必ず楠氏の遺趾を訪ぬべきである。まづ富田林驛に下車して南に向ふと金剛山の翠色帽廂に迫り絶頂にたなひく白雲の翩々たるはさながら菊水の旌の飜へるを思はしめる。東南一里で水分村に至ると、楠公誕生の地は字山の井の田圃の中に在る。

建分水神社はそれから約三丁、金剛山下に位し、境内高燥で老杉古松天を摩し、人をして忽然として盡忠の心を起さしめるものがある殊に境内の南木神社は、公が湊川での戰後、後醍醐天皇が痛く悼まれ御自らその像を作つてこの地に建て南木大明神の號を賜つた所で今は近郷の產土神となつて居る。

赤坂の城趾は水分村から南へ數丁の所にあつて、峭壁數十丈自ら城をなし、頂上の平地には城趾を存して居る、ここに立つて四方を望むと攝河泉三州の風光は一々指點することが出來る。正成ここに據つて北條の大軍を惱した有樣亦自ら髣髴として見る心地がする

この東に桐山城趾がある、これは正成がその忠臣恩地某を置き赤城

と相俟つて敵に當らしめた所で、これから一路川に添ひ山に從ふて數十町南へ進むと山の極つた所に千早村がある。ここはかの千早城趾のある所で、城は規模甚だ小さいがなほ八十萬の大軍を引受けて城の陷らなかつたのは奇蹟と思はれる許りである。城趾は東方高い所で百尺、西方六十尺、上は平坦で千早神社が祀つてある、行つて賽すると松聲來つて當年鼙鼓の音を聞くの感がある。城趾から上方十八丁に楠正儀の墓がある、金剛山はこれから登路二十町、眺望甚だ廣く遠く茅渟の海の風光に接し得られる。千早城趾を辭して西方十數丁長野驛に至る途中觀心寺がある。天長四年僧實慧の開基に係り後楠家の菩提寺となつた所で境内に梅多く近畿地方の梅の名所

の一である。又境内には楠正成の首塚がある。

○根來寺

紀和鐵道の沿線根來村大字西坂本の根來山にある歴史的の名刹で、古來僧兵を貯へ織田、豊臣の兵と干戈を交へた所、眞言宗眞義派の總本山で天治五年興教大師の開基に係り弘法大師作不動明王を本尊とし世に身代錐鑽の不動と稱して居る。往昔は一山の僧坊二千七百を算し雄を高野山と競ふの勢であつたが激しい秀吉の攻撃に逢つて一時は全く滅廢に歸するに至つた。現在の堂宇は其後再建せられたもので昔日の壯觀は見る由もないが、それでも當地方の巨刹として知られて居る。寺へは紀和鐵道の舟戸驛に下り紀川を渡り清水に

に出て直路一里半で山門の前出る。

○粉河寺

粉河寺の大伽藍は汽車の窓から市内に屹然として聳へて見ることが出來る。西國第三番の札所として知られた粉河寺は風猛山施恩寺と稱へる天臺宗の古刹で、光仁天皇の寶龜元年の創建に係り本尊は千手千眼觀世音である。當寺も昔は根來の山僧と同じく武裝して豐臣織田の諸氏に反抗した爲め六百有餘の僧坊も全部兵燹に罹り、僅かにその本尊と三十餘の脇士のみは祝融の災から逃れることが出來たのであつた。其後德川の代には次第に再興し現時は堂宇二十二、寺院八を設けやや舊觀に改めることが出來た。

○有田の蜜柑山

世に紀州蜜柑の名は三才の童子でも知らぬ者はない、紀州と云へばネルと蜜柑とを連想せしめる位その名を賣つたものであるが、これは和歌山の藩祖德川頼宣公が肥後の八代から其の種を取寄せて作つたに創まり、地味氣候のそれに適當した爲め次第に發達して今は全國に冠たるに至つたものである紀州でも殊に有田の蜜柑は名高い。有田川に沿ふた左右數里の間山と云ふ山には悉く柑園を設け、その形さながら壘壁の如く五層七層に及んでゐるが熟する時には紛々たる香氣は遠く四國の海岸に迄及ぶと云ふ、殊に澄む空に大陽の光を受けて黄金の玉を盛り上げた様な山の眺めは人目を驚ろかすものがある。

○湯崎温泉

和歌山縣下田邊町の南、海灣を隔てて瀬戸鉛山村がある、田邊から小舟を雇ふと二時間で達することが出來る。これから白良濱の風光を眺めつゝ鉛山に至ると温泉がある。崎の湯、疝氣の湯、元の湯、濱の湯、粟の湯、目洗の湯等に分たれ、すべて炭酸泉で、岬端海濱の岩石の間から湧出する。この邊海岸の風光頗るよく奇岩あり、島嶼あり、山嶺あり、長汀あり、怒濤あり、海禽低く舞ひ、魚新らしく紀州第一の勝地と云はれて居る。附近には又鉛鑛山あつて其の産額も少くはない。

○古座川の奇勝

紀伊の南端潮岬を東方に廻ると古座がある。古座の名は往古神武天皇が大和の賊を御討征の時、少時この地に御駐輦になつたに起ると云ひ傳へられて居る。この古座より古座川に沿ふて其の上流に至ると藍瀬に一奇岩があつて一枚岩と名づける。そこから宇津木、月の瀬の村々を經て川口に近づくと高巒疊嶂水を夾んで奇岩怪石は至る所に聳立してゐる。一枚岩は高さ百五十間、幅二百六十間その色は鐵のようである。これから海岸を八里で新宮に達する。

○熊野座神社

紀伊の本宮に至る者は熊野川畔に一つの大華表の屹然として聳へてゐるのを見るであらう、この華表は熊野座神社のそれである。社は崇神天皇の六十五年の創建で、熊野三山の第一山と稱へられる古社で、歴代皇室の尊崇の厚かつたことは史を繙く者の誰も知る所である。從つて史蹟として探るべきことも甚だ多い。明治二十二年の大海嘯の爲め壯麗な幾多の社殿は流失の難に逢ひ、今はその神域も新たにせられた爲め昔日の觀を見ることの出來ないのは遺憾である。それでも社殿を四社に分ち舊石寶殿の八社を併せて十二社となし賽者は遠方からも常に絶へることがない。

○舩坂山

備前、播磨の國境に聳へた山で、元弘の昔後醍醐天皇の隱岐へ流さ

補遺

れ給ふのを、兒島高德が奪ひ奉らうと企てた史蹟地である。今は長さ六十鎖の三石隧道を通じ汽車はその山の中を走つて居る。

○院庄

あはれとはなれも見るらん我たみを
思ふ心は今も變らず
よそにのみ思ひそやりしおもひきや
たみのかまどをかくと見んとは

これは畏くも元弘の昔後醍醐天皇の身をなげき世をかなしまれた御製であつて、今有栖川熾仁親王殿下の揮毫の下に石碑に刻せられて院の庄の行宮趾に建てられてある。院の庄は天皇が隱岐に遷される

時御駐泊遊ばされた所で、當時行在所の庭に忍び入つて櫻樹を削り「天莫空勾踐、時非無范蠡」の十字を書して天意を慰さめ奉つたことは史上に著名である。地は津山町より西北一里、伯耆街道の東北方五十町の地點にあり、昔の行在趾には社殿を建てて作樂神社と稱へられてゐる。高德の事蹟を八田知紀は次の如く詠んでゐる。

櫻木にうつせはかりの言の葉も
やまと心の花にぞありける

○赤間宮

下關市阿彌陀寺町にある官幣中社で、安德天皇を祀る、昔は阿彌陀

院庄　赤間宮

寺と云ふ寺であつたが明治維新後社格に改め社殿を改造した。祭禮は毎年陰暦三月二十三日から三日間例祭を行はれる。

安徳帝の御陵は宮の隣地にあつて、又宮の背後には壇浦で戰歿した平家一門の墓がある。風淋雨蝕數百の星霜を經、碑面も苔蒸して文字は判明せぬが、前列の七は平清盛、平資盛、平敏經、平經盛、平知盛、平敎盛、平□盛、の文字があり、後列の七碑には宗長、忠光、景經、亨俊、盛繼、忠□、二位尼、の文字が幽かに記されて居る、これは平氏の歿後有士の建てたものである。これより東方一帶の地は壽永の昔の古戰場壇ノ浦で、安德帝も二位尼に抱かれて平氏の一門と共に海に沈ませ給ふた。

今ぞしる御裳川の流には
波の底にも都ありとは

○岩柳島

下關市と門司市との間に彦島が横はつて三叉形の海峽を形づくつて居る。この東は早鞆の瀨戸、西北は小門と彦島間の小瀨戸、西南は彦島と大里との間の瀨戸である。この彦島の東岸に近く岩柳島の一小嶼がある。往昔小倉の藩士宮本武藏が長州の士佐々木岩柳とここで決鬪した名高い所でその時殪された岩柳の墓は元この島中にあつたが今は海中に沒落して見へずなつた。又島に近く與次兵衞の瀨と云ふのがある、之は豊太閤征韓の途次その舟がここを過ぎる時、船

頭與次兵衛なる者が公の乘船を此瀬に乘上げて危害を加へんと企て誅せられたからその名を附せられたものであると云はれて居る。

○大江山

鬼の住んだと云ふ大江山は丹波の天田郡と丹後の加佐郡及與謝郡の境上にある、高さ三千七百尺、一名を鬼城岳と稱へられて居る。昔時酒天童子と云ふ强盜がこの山中にこもり四方に出沒して良民を困らせたので、朝廷は源頼光に命じて之を退治せしめたことは三才の童子も尙よく知つたことで、それだけに此の山の名が高い。山に登るには宮津街道から佛性寺越をするが近道である、麓から山巓迄約一里。由來この山には歌が甚だ多い。

大江山いくのの道は遠けれど
まだふみも見ず天の橋立　　小式部内侍

誰もみなあかぬ眺めにおほえ山
秋は生野の方を眺めて　　寂蓮法師

○二見の海

玄武洞を持つて知られた豐岡川畔の田鶴野の海岸を二見の浦と稱へる。浦は豐岡川の下流にあつて、この邊は川幅ひらけ山峙ち石現はれ、山容水態甚だ風致に富んでゐる。この邊の風光を詠んだ歌は少くないが、古今和歌集に藤原兼輔朝臣が「但馬湯へまかりける時二見と云ふ所にて」云々に置いて

補遺

夕月夜おほつかなきを玉くしげ
二見の浦はあけてこそ見る

又祇園法師が諸國物語りに「前年の春伊勢の二見浦を見、次の年文月但馬の二見浦に罷りける」とて

花を東月かげ西に二見かな

等は有名である。城崎の温泉はこの北方にある。

○餘部の鐵橋

山陰線香住の西、海岸の上に築いた鎧驛で鎧村の海岸を眺め乍ら久谷驛を出るとやがて日本一と云ふ餘部の鐵橋にかゝる。この邊は一帶に山と海との間に鐵道を敷き、隧道と堤防とが次から次へと續いてゐて甚だ奇勝に富んで居るが中ても餘部の鐵橋は奇勝中の奇勝で隧道と隧道との間に架けられ橋下には鎧村の溪がありて、こゝから橋迄は高さ實に百三十呎、二年の日子と幾多の犧牲を拂つて架せられたもので、汽車が橋上を走る時はさながら空を行く感がある。而しこの鐵橋も今は損所を生じ危險が伴ふ樣になつたので鐵道省では近く修築を加へる筈である。

○浦富海水浴

山陰線西但の一邑濱坂町の西、居組驛を過ぎて但馬と因幡との國境をなす隧道を通過すると岩美驛に着く、驛から海邊へ十二丁で浦富の海岸に出るが、海岸は東に丸山の鼻が日本海へ突き出で、西は宮

島が海中に横はり、この間二十丁許りの間は砂濱相連つて波穏やかに海水浴場として最も好適であか。海岸に添ふ村落には遊浴者を迎へる爲めに觀潮館、清風館など現代式の旅亭も甚だ多い。宮島には古松の生ひ茂る下に荒砂神社がある。規模は甚だ大きいとは云へぬが四方の風光と相應じてその結構の精巧なのが人目をひく。宮の後ろの松間に立つて西を眺めると小久里濱の巉礁が海中に聳立し、鵜島、松島等何れも面白い枝振りの松を載せて散點して居る。東奥の松島に對し山陰の松島の稱さへある。松島の後に田後の小港がある海灣遠く出入して灣内に門島、白島、黒島などがさま〳〵な姿をして浮んでゐる。小舟を浮べて西に漕ぐと菜種島、觀音島等の奇勝の

間を縫ふて千貫松島の絶景を賞して網代の港に行くことが出來る。千貫松島は曾て鳥取の藩主池田侯が此地に遊んで島の上に立つ松を賞せられ、もし我が庭に之を移す者があれば千貫文の褒美を取らすと云つた所ださうである。濱坂から浦富、網代につづく五里の海岸は實に國中得難い景勝の地である。

○稲葉山

稲葉山は鳥取市の東南方約一里、岩美郡國府村にあり。かの中納言行平が「立わかれ稲葉の山の峰に生ふる……」と歌つた所である。この地に池田家累代の墓及び國幣中社「宇部神社」等がある。中納言行平が因幡の國主であつた頃官邸を定めたのも此の地で古來歌が

補遺

多い、左に二三主なるものを記して見る。

立かへりいまや稲葉の山風も　藤原爲家

まつに音する初雁の聲

忘れなんまつと名つけそ中々に　藤原定家

稲葉の山の峰の朝風

さらに又まつにもつらき夕かな　俊成の母

稲葉の山の秋風の聲

○東郷湖

東郷湖は一に鶴の海とも云つて、鳥取縣東伯郡東郷村の國道と鐵道との中間にある周圍三里の湖水で其の湖邊には東郷、松崎、舍人、

花見等の十餘村がある。湖の下方は橋津川となつて日本海に注ぎ、美德、鉢伏、羽衣石等の諸嶽が東南西の三方から湖邊に迫つてその姿を水に落し、瀲灩たる波上小船を浮べるによく、釣を試むによく又暑を避けるによい。その上湖中から自然に温泉の湧出するあり之を東郷温泉と稱へ湖中に浴舍が建てられてあるが其の狀は宛ら水に浮ぶようである。この泉質は無色透明の酸化亞鉛化鐵泉で諸病に適する所から浴客は常に甚だ多い。今湖の南岸に松崎停車場を設けられて居る。古來文人墨客の賦詠も尠くはない。

環水群山綠若流、此中要得泛仙舟、尤思湯島月明夜、

不遜中靜湖上秋。　秋月天放

東郷湖

補遺

いつきても涼しかりけり鶴の海の
いで湯に洗ふ人の心は

萩原汎愛

○船上山

出雲富士の稱ある山陰第一の名山、大山山脈の北に走つて海に入る半腹にある峰岳を舟上山と云ふ、その狀はさながら富士の寶永山の樣な形をなしてゐる、山陰沿線御來屋驛から二里ばかり。この山は元弘の昔後醍醐天皇が隱岐から遁れて伯耆國に上陸し給ふたのを出で迎へ帝を奉じて義兵を擧げた名和長年の盡忠の史蹟を止める山である。登路は以西村字山川からなれば山麓から頂上迄一里十四丁である。行宮趾は今も天皇屋敷と稱して樹木の茂れる間に存してゐる

山の東麓山門には千丈瀧がある、千丈迄はないが高さ六十丈幅六尺の素簾を垂れた樣な飛瀑で甚だ壯觀を極める。又長年を祭る別格官幣社名和神社は御來屋驛の附近名和村にある。

○夜見ケ濱

山陰線米子の町から對岸の三保關に向つて弓形に突出し外海と中の海とを隔てた五里の長汀を夜見ケ濱とも云ひ又その形狀から弓ケ濱とも稱へる。幅の廣い所は一里、一帶の砂濱には翠松鬱々として密林をなし汽車はその松の間を通つて居る。汽車の止まる所は砂觜の突端境港である。この濱の景勝は丁度丹波の天の橋立を擴大したもので雄大なる山水の眺矚は實に山陰名勝の隨一である。

○中の海

東は夜見ケ濱を以つて外海と隔てられ、西は松江市を挾んで宍道湖に通じ、出雲伯耆の連山に扼せられた東西八里、南北五里の眠れる如き内海で中に江島、大根島の二島が丁度眼球の様に横つて居る。沿岸には境、米子、安來、馬潟、外江、本庄等の諸港邑があつて米子を發する汽舟はこれ等の諸邑を連絡し又松江天神橋畔からは美保ケ關隱岐島等に向つて定期汽船も往復して居る。海はさながら湖の様で沿岸の長汀曲浦は繪の様に靜かに美しい。中にも安來港頭の十神山は四時翠綠滴らん許りで、かの俗謠

安來千軒名の出た所、社日櫻に十神山。

の出た所、又同じく安來の郊外に聳へる愛宕山は、

愛宕お山に春風吹けば、安來千軒花吹雪。

の出た所である。この十神、愛宕の兩山を左方に望み乍ら井尻川、飯梨川などの南から來つて内海に入るのを眺めつゝ馬潟に着くと、天神川は宍道湖の水を流して西から來りその西方二里を溯ると松江市の大橋々下に着くことが出來る。

○稲佐濱

出雲大社で名高い杵築町の北方、八雲、鶴山、龜山の諸山が海に迫る所に稲佐の濱がある。稲佐の濱から日御崎に至る區間は又形勝の賞すべき所が多い、濱は日本海に面し南に石州の大山三瓶の峰を望

補遺

み八雲、鶴山と共に海中に突出すること二里、その岬端を日の御崎と稱へる。日の御崎の景勝についてはかの俗謠の

關の朝日に夕陽の御崎出雲名所の西東

とある如く美保關と共に東西海景の双美であつて御崎と稲佐濱との間は一大灣をなし灣内に沖の御崎と云ふ小島が浮んで居る、島の高さ數丈、巖上には小祠あり、これから南方へは一帶の海濱白砂遠く連つて簸川郡の小田村に至つて居る。この間を三里ヶ濱と稱へ海山の風光甚だ愛すべきものがあると共に又海は遠淺にして潮水清潔な爲め夏時の避暑又は海水浴場として賑はつて居る。

○屋島附近

源平の古戰場として史上に著しい屋島は高松市を離ること東方一里半、その東方の山麓を壇の浦と稱へ、山角には安德天皇行宮の趾がある。屋島の山頂には四國八十八番の靈場八島寺あり、寺寶として源平の軍旗、合戰圖等を藏して居る。山の西方を獅子靈岩と稱び屋島の全景を望むには最も適當の場所とされて居る。山の東方志度街道に至ると數丁で佐藤繼信の墓、神櫛王の墓、義經の愛馬を葬つたと云ふ大夫黒の墓等探るべき所が多い。五劍山は志度ヶ浦の海岸にあり海拔千五百餘尺、奇勝に富んだ瀬戸内海中の名山として知られ中腹には八栗寺がある。寺は四國八十五番の靈場である。

○星ヶ岡

補遺

愛媛縣森松線の石井驛から行くこと半里にして星ケ岡がある。地は往古南朝の忠臣得能、土居の二氏が長門の探題北條時直を邀へ討つた古戰場である。星ケ岡の西方二丁に天山がある、ここは神代の昔諸冊二神が住ひ給ふて日の大神を產んだ趾と傳へられて居る。

○小松島

德島市の東南方小松島線の終點地を小松島町と云ふが、その沿線には白鳳二年天眞正覺尼の開基に係る丈六寺の古刹がある。小松島の海岸には日の峰と稱へる所があるが崎は小丘で風景眺望の勝に富み四隣にその名を知られて居る。その南の海濱は元曆二年源義經が平家を討たんが爲め兵百五十騎許りで上陸した餘戸の浦である。たゞに史蹟地として名高いのみでなく海山の風光亦甚だ賞するに足るものがある。

○甲の浦

たましきの甲の浦の忍びねは
一夜をむすぶ契りなるらん

これは敎房卿の詠であるが、歌に云ふ甲の浦とはこの甲の浦のことである。土佐阿波の境をさること南方半里昔は櫻津と稱んだ所、地は土佐東端の要港であつて大阪又は德島と日々定期汽船の往復がある、德島へは海上六十六浬、灣內甚だ廣しとは云ひ難いが水深く前には竹島、双子島、葛島の諸島嶼靑螺の如く羅列して四時海靜かな

水郷である。且つ明治七年佐賀の亂の主謀者江藤新平が九州を追れてここ迄來り捕へられた史的地。

○室戸崎

蹉跎岬と共に相對して土佐灣を擁する四國東南端の海角で怒濤澎湃たる太平洋中に突出すること實に三里餘、岬角は荒波に洗はれて絶壁削立し海濱には奇岩怪石亂立して、白波岩に吠へて心膽を寒からしめる。岬端から九十九灣に沿ふて西方一里半室戸村字元村には金剛項寺がある、大同年間弘法大師の草創した四國二十六番の靈場で俗に西寺と稱へ秘藏藥師如來を本尊として居る。この何れかを訪ねる者は又他の一方をも必ず探るべきである。

○五臺山

高知市の南門浦戸灣内に東西から突出して更らに小灣を造る二つの岬がある、その西のものを西灣と云ひ、東のものを東灣と稱へる、小灣は則ち吸江灣である。吸江灣は實に高知市の咽喉であつて五臺山は灣の北端に隆起し、青柳橋を隔てて稲荷新地と相對して居る。山上の眺望甚だよろしく昔はこの山腹に夢想國師禪庵を結び、同師の撰になる呑海亭、粹適庵、磨軌堂、白鷺洲、兩華嵓、潮谷洞。玄夫島、圖見嶺、獨鈷水の十區の勝がある。何れも山水の美を聚め景趣に富んでゐる。また山頂には竹林寺がある、神龜年間聖武天皇の勅命により行基上人の草創した所で本尊は上人自作の文殊菩薩、伽

藍は數百年の星霜を經て輪奐の美は乏しいが古香人に薫つて自ら敬虔の念を起さしめる。

○水前寺

熊本驛より一里、市外出水村にあり、縣人が誇つて九州第一とする一庭園である。往昔細川氏入國の際、豊前耶馬溪羅漢寺の僧玄宅を伴ひ來つて同地に一寺を營ましめ水前寺と名づけたが後細川氏は寺を園の西北隅に移してここに亭樹を設け成趣園と名けた。地は園中岩石の間から清泉自ら湧出して一大池を造つてゐる、池の水淺くして清く游鯉一々數へることが出來る、假山泉石妙を極め四季遊覽歡樂の地とされてゐる。池畔には數個の茶亭酒樓あり又、池水は流れて江津湖に入つて居る。江津湖は周圍一里、これ亦舟遊の勝區として名高い。

○五箇庄

熊本縣下には現代の桃源境と稱へられる五箇庄がある。庄へは九州本線有佐驛から下車して辿れば最も捷徑である。五箇庄は昔時平家の一門が西海の藻屑となつた時、その沒落から逭れてこの山中に世を忍んだ者の子孫によつて一種特色ある社會を形づくられた所で、土地の風習として他郷とは結婚せずただ一族のみの間に往復して椎原、仁田尾、久連子、葉子、樅子の五村落を爲して居る。戸數二百、人口千名に餘り住民は小豆稗を常食として居る。

○芥屋の大門

佐賀縣下の唐津町から松浦川の長橋を渡り、虹の松原を過ぎ、濱崎町をへて筑前の糸島郡に入り、そこから吉井、深口、前原、今宿の諸驛を過ぎて福岡市に出る。縣道がある。唐津福岡の間十三は、道路平坦にして砥の如く又長汀曲浦の景勝に富んでゐる。中にも前原の西方三里芥屋村には芥屋の大門と云ふ奇勝がある。大門は芥屋村を北へ五丁を隔つた海中に突出した巨岩で、附近に數十の方石柱攢立し、その樣井然として名匠の削つた樣である。巖下は海水深く碧く又一の洞窟あつて北に向ひ洞口よりは常に海水を呑吐して居る。小舟を漕んで洞中に入るとその廣さは五間許り、奥に進むこと約百間にして左方に廻り上を仰ぐと悉く角柱を束ねて空を掩へる如く而も落ちんとして落ちず人の心を寒からしめるに足る。

○英彦山

英彦山は福岡縣第一の高山で海拔三千六百餘尺、巍然として雲表に聳へ阿蘇、霧島の二山と共に九州の三名山である。山上に官幣中社彦山權現を祀る、中世僧院の盛であつた頃は僧坊三千六百を有したと傳へられて居る。登山の順路は九州本線油須原驛から三里にして達することが出來るが、耶馬溪探勝の序があるなら中津町から山國川を溯るが最も妙であらう。山腹に彦山村がある、二百餘戸の小村であるが夏時には避暑探勝の客で賑つて居る。山巔に達して四方

補遺

を眺めると東は二豐の連山蜿々として波の如く、南には阿蘇の秀峰近く聳へ呼べばまさに答へんとして居る。西北は筑後、那珂、遠賀の諸流、平野、村落、山間を流れて渺茫たる玄海洋に注ぐあり 悉く双眸の中に集る、蓋し北部九州の勝區である。村山佛山英彦山に賦して曰く

法螺吹聲一聲長、道士導我攀羊腸、上宮社在最高頂、
危欄縱眸睨八方、是山是水都不辨、四國九州青茫々、
斯時神氣白軒擧、欲把我詩間彼蒼、高聲唱出兩三聲、
驚敢天狗天際翔、萬叡松杉忽震動、怪風捲雨奔水飛、
須臾雨晴雲亦散、秋爽三千八百房。

○波上神社

琉球那覇港の東北端、巨岩の海中に高く聳へる所に瀟洒たる一小祠がある、波上神社は卽ちそれで祭神は速玉男尊、伊弉諾尊、及び事解男尊の三神、社格は官幣小社で沖縄縣の一の宮である。土人は鎭西八郎爲朝を祀るものと稱へてひどく尊崇して居る。境内は一方海に面し一方は又首里の舊王城に對し眺望雄大その景亦甚だ佳である。夏時には崖下に來つて海水に浴する者が多い。土人は飽盛を携へて集り晝夜日傘を擴げて祠畔に横はり、或は放歌し深更に至る者も往々ある。仲秋の月は又更らに佳。

○天使館

那覇の港に明治橋の西方西村にある。往時清の冊封使を迎へた所で其の構造は悉く支那の官廨の制に倣ひ、前に照壁を築き、東西に轅門を建て、外柵をめぐらして居る。柵内東西の四房、左右角亭各一、大門には天使館と署してある、門内の東西班は各六楹、左右に榕樹二株を植へ、庭中を行社の場としたもの、正面には大堂、その後には中堂あつて封冊を藏して居る。左右は冊封使の房室でその次の九楹は從者の居室とした所。この館は新館であつて又別に舊館を存して居る。

○首里城

首里城は舊琉球王の居城の地で、その規模は大ではないが建築は甚だ大く、創立以來幾度王統は代つても何れの王廟にも國朝となつて居た所で、歴史的遊覽地として一歩を進めるの價値がある。殊に動植物、俚俗等悉く内地と趣を異にして居るから一種の天然的博物場とも見られる。而し首里には内地人の酒樓旅舍は一もない、故に首里に赴くには那覇に投宿しこゝから航行するを便とする。那覇と當地間は半日航路であるが、夏時は炎暑甚しいから遊覽には適せず、秋冬は海上が穏かでない日が多い、まづ三月から六月頃が最も適して居る。

○圓山の公園

臺北の北門外から大稲程の市街を左にして西方一里許りを行くと前

面に老樹の蓊鬱と生ひ茂つた丘を望むことが出來る。近づくに從つて一水またその麓に一水のめぐつて居ることを知る、これは圓山の公園であつて神廟の巍然として聳へるのは北白川宮殿下を奉祀せる臺灣神社である。淡水線は臺北からこの丘の麓を北に走つて居る。山下には停車場がある。山下をめぐる一水は基隆川で東から流れ公園の下を過ぎて淡水河に合一して居る。社前の前に鐵橋を架して居るが橋下の深潭は常に紺碧を湛へて神龍の淵に潜むかと疑はれる、土人はこれを劒潭と稱へてゐる、橋上に立つて四方を眺めると四邊綠樹蓊鬱として神威また赫々自ら別天地にあるの感が起る。

○新高山

日本最高の山で、海拔一萬二千八百五十尺、富岳よりも高きこと四百八十尺である。土人はこれを玉山又は八通奥山と稱び、外人はモリソン山と稱へてゐる。新高の名は臺灣が我が領土となつた時、明治天皇が命名されたところ。山に登るには林圯捕から八通奥越の山路をとるべきである。斗六から嘉義に至る車窓時としては白雪の全山を包むを望むことがある。

○四時溪温泉

臺灣最南の都邑恒春に近く四時溪の巡査派出所がある。その前面には温泉の湧出するものあり、四時溪の温泉と稱んでゐる。臺灣本島には北部に北投の温泉がありて世人にも知られてゐるが四時溪は土

補遺

地遠陬の爲め餘り多くは知られて居ない。この前面の道路は牡丹蕃人の、石門から東城海口等に出る通路で明治七年西郷從道が牡丹社を討伐した時第一次に蕃人と衝突した古戰場である。

○海晏寺

東海道線品川驛から二十餘町南品川の街道に近く海晏寺がある。かの端唄の

あれ見やしやんせ海晏寺、まゝよ龍田も高尾でさへも及ひない
ぞへ紅葉狩。

で知られた紅葉の名所である。寺は西明寺時頼の開基に係る古刹であるが本堂は失火の爲め灰燼に歸し今は假堂を存して居る。寺背一

帶の丘上には楓樹夥しく、丘に登つて四方を眺めると品川灣の砲臺も一眸の中に集り風光甚が佳である。寺内に岩倉具視の墓がある具視は明治維新の功臣であることは史上に著しい。

○池上本門寺

東海道本線大森停車場から鐵道線路を横ぎつて西南方へ約二十町で池上村に入る、この地には長榮山本門寺があり俗に池上の本門寺と稱へてゐる。快僧日蓮の入寂した所で、日蓮宗の總本山である。總門を入つて石磴を登ると右方の林間には五重塔高く峙つて居る。正面には本堂、左方には釋伽堂がありその外上人廟、眞骨堂等が建ち並んで居る。上人廟の傍らには日蓮の硯水井あり、廟内には上人寄

補遺

掛の柱がある。境内に櫻樹鬱しく殊に會式櫻の一株は十二月十二日から十四日迄の會式當日に花を開く珍木として名高い。明治の大政治家星亨の墓も亦境内にある。

○明治神宮

明治大帝の神靈を齋き祀つた處である。東都の郊外を繞る山の手線原宿附近から西方遙かに綠罩めた森林の間から社殿を拜する。此の宮地は嘗て南豐島の御料地とせられし處、廣さ總面積二十二萬坪、其内本殿玉垣内約六千五百坪に設はれた社殿の御建坪は六百五十坪、之れ國民敬仰の象徴たる御事業として行はれた事とて其壯嚴極まり無きは勿論、四邊の神々しさ、殊に御在世中の御

偉蹟を偲び奉つては只だ〳〵敬虔の念を以て襟を正さずには居られまい。

○杉田の梅林

横濱停車場から南方約三里にして杉田村に行くことが出來る。地は東京灣口を扼する富津、觀音の兩岬海中に突出して東は上總の木更津と相對し又鹿野山を望むことが出來る。昔から梅の名所として名高く、全村殆ど梅たらぬはない。佐藤一齋が曾て當地の梅を賞して

一村皆白雲世界、其の巔を極めて俯瞰すれば花光雲影、遠近相含み、而して海灣晶々然、一大鏡を磨き漁舫その間を往復す。

と嘆賞したのも蓋し過褒ではない。村の後丘を越へて二里ばかり金

澤村に出る街道大岡川村には弘法大師の開基になつた瑞應寺の名刹があり、その又奥二三丁には中里温泉がある。共に探るに足る。

○建長寺

鎌倉に來つて八幡宮に賽した者は又建長寺を訪ふことを忘れてはならぬ。寺は巨福山と號し八幡宮からその西側に沿ふて行くこと數丁巨福兄坂を越へた所に在る。鎌倉五山の一で最明寺時頼之を創立し大覺禪師を開山とした名刹で、寺域實に五千二百餘坪、境内に七株の白槇、蓮華の銅盤、開山堂、山門上の十六羅漢等あり、本堂欄間の天人は左甚五郎の作である。寺寶として頼朝が富士の卷狩に用ひた陣太鼓、陣鐘を藏してゐる。方丈の後丘勝上巘からは富士の遠姿

相模灘の風水等を一眸に聚め眺望甚だ豐かである。

○由井ケ濱

鎌倉停車場から西南方半里長谷の海岸に出ると西に靈山岬、東に飯島岬を眺めることが出來るが兩岬の間一帶の地は由井が濱である。稲瀬、滑、豆腐の三細流靜かに海に入り海上波穏やかで遙かに三浦半島の翠黛を望むべく、眞砂美しきあたり松籟は漣波に應じて天樂を奏するもののよう。この濱は源氏の世には武術の練習場として充てられ鎌倉武士の心膽を錬磨した所であるが今は都人士の遊歩場となり、別莊地となり、時には繪畫、小説の背影として傳へられ今は幼童に迄歌はれるに至つた。

○葉山海水浴場

三浦半島の西岸葉山は東宮殿下の御用邸があるによつて廣く、その名を知られて居るが、又夏時の海水浴場としても好適地である。地は逗子停車場を距ること南に一里半、道は海岸に沿ふてあり逗子の日陰茶屋から森戸の濱に出で、各島の小島を見つゝ進むと青松の繁茂した岬角の海中に突出せるを見る、これは長者ケ崎で、卽ち葉山の海水浴場である。岬に立つて眺めると江の島、大磯の海岸から豆州の連山、富士の頂迄居ながらにして望むことが出來る。岬の後方を旗立山と稱へ往昔北條父子が和田義盛と戰つた古戰場である。これより東十數町の所を秋名山と稱び海拔七百十二尺、山上の眺望甚だ廣く、近國の諸山は悉く指點の中に集り、豆州大島も鯨の海に浮べる樣して眺め得られる。

あしからの秋冬の山にひく舟の
しりびかしもよここはこがたに

萬葉集

○三崎

三浦半島中の海水浴場として名高い松輪の海岸をさること一里ばかり半島の南端を三崎と云ふ、城ケ島は前面に横はつて自ら波濤の激襲を防ぐために海岸は海上常に穩やかで昔から海上の勝地として傳へられ、源の頼朝もこの地には屢々來遊せられたもので、今も存して居る椿の御所、桃の御所、櫻の御所などの地名は皆頼朝が別館

を營んだ所である。椿の御所に近い小半島を尼ケ崎と稱へ特に風景の美に富んで居る。桃の御所に近い歌舞島は頼朝が來遊の度毎に歌舞を催した地として傳へられて居る。地に海南神社がある、鎌足十二世の孫藤原資盈夫婦の靈を祀る所、三崎はかく風光と史蹟とに富むのみでなく又東京市民の日々食膳に上る魚類の輸送地としても名高い。

○伊東温泉

伊東は伊豆田方郡の東端、熱海より海路四里の所にある。地の玖須見・松原の二村に温泉湧出しその松原にあるものを猪戸湯、出來湯和田湯等と稱へて居る。旅舍あり、料亭あり、風光亦甚だ賞するに足るが交通不便な爲め來遊する者は甚だ多くはない。伊東の名所には温泉の外伊東祐親の屋敷跡、同じく墓がある。又同地の葛見神社には周圍十抱もある老樟あり、この所は祐親の女八重姫が伊豆の流人頼朝を慰めた所と云ひ傳へられて居る。

○三保の松原

東海道本線興津の海岸から舟行一里にして駿河灣内の三保の松原に達することが出來る。此の地は眺望佳絶の地として古來人々に賞し清見潟の靜海に突出せる一里の砂州には翠松枝を交へて遙かに富岳の偉容を望むべく、洲中には三保神社、羽衣の松あり、羽衣の松は謠曲にて名高く今も猶ほ天女の優遊する樣を思はしめる。

○小夜の中山

金谷亭車場に近い「いにしへも斯かるためしを菊川の」と俊基朝臣に詠はれた菊川の里から日坂峠の中を登ると有名な小夜の中山に入る。この地今は日坂峠に新道を開いたから菊川の里に降つて再び坂路を登るの煩はない。夜啼石は道傍にあり今も名物飴の餅を賣つて居る。この左方の小丘には久延寺の子育觀音がある。金谷停車場からこの地迄約一里、下車して昔の東海道の狀を偲ぶも亦興の深いことである。

○伊良子崎

三河の南端伊良子半島の末端を伊良子崎と稱へる、この地は戸數二百許りの一漁村に過ぎないが、風光の明媚なることは三保の松原に比して遜色なく盡頭の丘上に登ると西南には伊勢海をへだてゝ志摩の群島を煙波の間に望むべく、前面には目近く知多の半島を控へ、波心には又篠島、日間賀島、佐久の島等が夢の樣に點々と浮んでゐる。丘下の海濱は戀路ヶ浦の名のある所でその東南には牛ヶ首の巨巖あり、そのほとりに二大石門があつて波濤の碎ける狀は壯麗を極める。

○木曾川

木曾川は木曾山中に發して濃尾平原を灌漑し伊勢海に入る大河で木曾川驛から十四五町にして有名な木曾川堤の櫻があり、二十町にし

て川島の桃、三十町にして四季の里がある。沿岸の犬山城は天正年間に家康と對陣して陣地を敷いた所である。

○稲葉山

岐阜市の東北にある古城趾で中納言行平が

立わかれ稲葉の山の峰に生ふる
松としきかば今かへり來ん

と詠じたのはこの山の事である。山に登ると其の頂は公園で園内には東照宮、物産陳列所あり、又板垣退助が刺客に襲はれた中勢院は同じく園内の萬松閣であると云はれて居る。山上の眺望甚だ展け岐阜市街はその脚下にある。

○永平寺

福井市を距ること東南四里吉田郡志比谷村の永平寺山の山麓にある曹洞宗の總本山で寛元年間道元禪師の開基に係る古刹、初め大佛寺と稱へたが後漢明帝の代弘法初めて入唐した時の年號に因み今の名に改められた。境内六千三百坪、正面勅使門の左右には高さ十丈の老杉繁り、堂塔伽藍九十餘、甚だ宏大壯麗を極む。

○能登の西岸

七尾から能登半島を繞り鵜川、小木、飯田等をへて珠洲岬の北端迄の間には甚だ奇景が多い。殊に珠洲崎の邊りは眺望雄大で晴天には佐渡島は青螺の如く大洋の間に浮び、立山の翠巒又まぢかに見るこ

とが出來る。地に鑛泉あり温浴に供して居る。この海岸には七尾から内海を辿つて宇田津に至る汽船が航海して居る。この航に便して小木港に行くと九十九濱の勝亦訪ねるに値す。

○久米路の橋

信州水内街道の犀川に架した名橋で一に水内の曲橋とも稱へる。岩石の上に框を組んで橋礎とし橋上曲折して曲平をなす、口碑に往古神仙降り之を架すとある。その後改築毎に舊觀を改められ今は曲橋の俤を失つて居る。橋下は數十仞急湍岩に激して奇觀を呈する。

紅葉をば夜のにしきとなすものは
久米路の橋の嵐なりけり　　讀人不知

○相生の松

上野の國山田郡の相生村にある古松で、一幹にして男松、女松の二枝を生じ互ひに相抱合す、周圍は約一丈もあらうか、枝は鬱々と相繁り寒翠を漲らす觀がある。和歌等にも多く詠まれた名木である。この地は赤岩鐵橋から四丁餘、車窓からもまた望見することが出來る。

○枝の池

秋風に吹きしかれたる島松の
枝の池にや波の越ゆらん

と行家卿に詠れた上州新田郡木崎町にある東西二十二間南北十一間

補遺

の小池で、池中に片葉の蘆があるによつて名高い。維新前迄は池畔に冠懸松、駒立松、物見松、岸上の八株等があつたが今は伐られて無くなつたのは遺憾である。

○勿來關趾

水戸を去つて東に三十二哩、水盤國境の隧道を越すと間もなく國道を左に入ること七八町の地に勿來の關趾がある。この地は往古奥州の關門で、曾て「吹く風を勿來の關と思ひしに道もせに散る山櫻かな」と源義家をして詠はしめた所。この詠は今はこの地に刻せられて居る。昔は櫻の名所であつたが悉く枯死して今はその趾を留どめず。山下には碑の石摺を賣る家あつて僅かに當時の狀を忍ばせるのみ。

現代紀行文（終）

勿來の關趾

大正十一年十二月十五日印刷
大正十一年十二月二十日發行

定價金八拾錢
送料十二錢

著作權所有

現代紀行文

著者　小林鶯里

著作兼發行者　大淵善吉
大阪市南區末吉橋通四丁目四番地

印刷所　山田元吉
大阪市南區安堂寺橋通二丁目廿六番地

發行所　大阪市南區心齋橋北詰
振替口座大阪千〇三十五番
駸々堂出版部

古川喜九郎著　熟語集成　漢和大辭典　布製箱入全一冊　特價金參圓　送料金貳拾四錢

小野康治著　大正　學生自習辭典　布製全一冊　定價金九拾五錢　送料金拾貳錢

小野康治著　模範學生　自習新辭典　四六版洋裝全一冊　定價金七拾五錢　布製金九拾錢　送料各金拾貳錢

小野康治著　最新　學生豫習辭典　四六版洋裝全一冊　定價金九拾錢　送料金拾貳錢

小野康治著　學生　漢和豆辭典　袖珍布製全一冊　定價金六拾錢　送料金八錢

普通學研究會　漢和新辭典　布製箱入全一冊　定價金七拾五錢　送料金八錢

小野康治著　大正　國語新辭典　布製箱入全一冊　定價金貳圓卅錢　送料金拾八錢

大阪市心齋橋北詰
發行所　駸々堂書店
振替口座大阪千〇卅五番

國語研究會著	模範	日用大辭典	布製箱入 全一冊	定價金壹圓八拾錢 送料金拾八錢
岩崎妹尾兩文學士	新式	模範いろは辭典	布製箱入 全一冊	定價金壹圓 送料金拾貳錢
岩崎文學士著	新語挿入	日用いろは辭典	小形布製 全總皮	定價金壹圓 皮製金壹圓卅錢 送料各金拾貳錢
阪井喜夫著	英語獨習	ABCより會話まで	ポケット形 全一冊	定價金六拾五錢 送料金六錢
阪井喜夫著	實用英語	會話と通信文	ポケット形 全一冊	定價壹圓二拾錢 送料金八錢
奥村算貞著	新式	實用珠算學	菊版形 全一冊	定價金九拾錢 送料金八錢
奥村算貞著	最新	珠算學大成	布製 全一冊	定價金壹圓五拾錢 送料金拾貳錢

大阪市心齋橋北詰

發行所 駸々堂書店

振替口座大阪千〇卅五番

京都師範研究會著	地歴理科入學準備	最新自習書	菊版形 全一冊	定價金九拾錢 送料金拾貳錢
入學豫習會編	入學準備	國語新自習書	菊版形 全一冊	定價金五拾錢 送料金八錢
入學豫習會編	入學準備	綴方新自習書	菊版形 全一冊	定價金五拾錢 送料金八錢
長瀨直臣著	系統的模範	算術新準備書 最新標準的問題集 設け易き問題と考へ方解方	菊版形 全一冊	定價金七拾錢 送料金八錢
長瀨直臣著	系統的分類的	新式豫習算術	四六版 全一冊	定價金五拾錢 送料金六錢
小川佐代楠著	キツトカカル	算術準備書 基礎問題の正しき考へ方 應用力試驗問題わかり易き解方	四六版 全一冊	定價金六拾錢 送料金六錢
英語研究會著	改訂增補	英語の近道	小形布製 全一冊	定價金三拾錢 送料金二錢

大阪市心齋橋北詰

發行所 駸々堂書店

振替口座大阪千〇卅五番

大橋醉月著　作文資料　**美文寶典**　布製新形函入　定價金壹圓　送料金八錢

宮本紅雨著　わかき男女の　**新書翰文**　布製新形函入　定價金壹圓　送料金八錢

小宮水心著　思想交換　**新書翰文**　布製菊半全一冊　定價金六拾錢　送料金六錢

小木曾啓次郎著　記事消息　**自習文範**　布製菊半全一冊　定價金六拾錢　送料金六錢

大町桂月原文　田中桃葉評釋　評釋　**桂月文粹**　布製箱入全一冊　定價金八拾錢　送料金八錢

高野弦月著　若き人々の　**美文的書翰文**　布製箱入全一冊　定價金八拾錢　送料金八錢

高野弦月篇　代表的傑作　**名家名文**　布製箱入全一冊　定價金八拾錢　送料金八錢

大阪市心齋橋北詰
發行所　駸々堂書店
振替口座大阪千〇卅五番

小林鶯里著　現代　**紀行文**　（最新形箱入）　定價金八拾錢　送料金八錢

高野弦月著　**美文の花**　（最新形箱入）　定價金八拾錢　送料金八錢

駸々堂編纂部著　**實用書翰文**　（菊版形全一冊）　定價金六拾五錢　送料金八錢

駸々堂編纂部著　**實用女子手紙文**　（菊版形全一冊）　定價金六拾五錢　送料金八錢

崑岡舍著　**最新書簡文**　（菊版形全一冊）　定價金六拾五錢　送料金八錢

清水女史著　**最新女子手紙の文**　（菊版形全一冊）　定價金六拾五錢　送料金八錢

駸々堂編纂部著　**最新日用文**　（四六版全一冊）　定價金三拾錢　送料金六錢

駸々堂編纂部著　**最新女子用文**　（四六版全一冊）　定價金三拾錢　送料金六錢

大阪市心齋橋北詰
發行所　駸々堂書店
振替口座大阪千〇卅五番

佐藤梅園書
女子消息
女子文のしるべ
（菊版形和装 木版刷美本）
定價金六拾錢 送料金八錢

日下部鳴鳳書
女子はがき文
（菊版形和装 木版刷美本）
新進の著書日下部先生の揮毫にて筆跡の美他の及ばざる點あり
定價金六拾錢 送料金八錢

日下部鳴鳳書
かなのしるべ
定價金六拾錢 送料金八錢

赤堀吉松 赤堀峯吉 共著
最新
和洋料理法
菊版形和装 全一冊
定價壹圓四拾錢 送料金十二錢

野田雄妙著
投入と盛花の挿し方
附草木水揚法
半紙判和装 全一冊
定價金八拾錢 送料金八錢

春秋庵薫甫著
花道全書
半紙判和装 全三冊
定價貳圓八拾錢 送料金拾八錢

大阪市心齋橋北詰
發行所 駸々堂書店
振替口座大阪千〇卅五番

小野鶯堂書
女子消息
手紙のしをり
（ふりかな附）
本書は習字界の泰斗鶯堂先生の著書でありまして現代の婦女子達に最も的しました習字獨習書であります此御手本にて御練習になれば文句も上手に書ぶりも自から立派になります女子教育の爲め是非本書を御進め申上げます
定價金六拾五錢 送料金八錢

小野鶯堂書
女子手紙の枝折
定價金六拾五錢 送料金八錢

小野鶯堂書
雁のおとづれ
（ふりかな附）
定價金六拾五錢 送料金八錢

小野鶯堂書
雁の音づれ
定價金六拾五錢 送料金八錢

小野鶯堂書
小くら百人一首
定價金六拾錢 送料金八錢

佐藤梅園書
習字兼用
かな字集
（菊版形和装 木版刷美本）
小野鶯堂先生校閲の元に梅園先生の筆なりしものなり
定價金六拾錢 送料金八錢

佐藤梅園書
習字書翰文
（男子用）
定價金六拾錢 送料金八錢

大阪市心齋橋北詰
發行所 駸々堂書店
振替口座大阪千〇卅五番

村田海石書	三體千字文	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
多田親愛書	女子消息 ゆきかひぶり	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
玉木愛石書	言文一致 習字日用文	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
玉木愛石書	新撰書翰文	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
玉木愛石書	新撰手紙の文	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
入澤盈江書	習字兼用 日用文	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢
入澤盈江書	習字兼用 女子新文のかきぶり	和裝木版刷全一冊	定價金六拾錢 送料金八錢

大阪市心齋橋北詰

發行所 駸々堂書店

振替大阪千〇卅五番

242
127

終